

明治大学外国人研究者招聘制度 報告書

<招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar>

氏名	陳婉
Name	
所属機関(派遣元)	北京外国語大学北京日本学研究中心
Affiliation (Home Organization)	
現在の職名	博士後期課程四年生
Position	
研究期間	2022年10月1日-2023年9月30日
Period of Stay	
専攻	日本文学
Field of Research	
ホスト教員氏名と所属学部研究科等	竹内栄美子教授 (文学部)
Name of host teacher and affiliation at Meiji University	

<外国人研究者からの報告 / Foreign Researcher Report>

①研究課題 / Research Theme

武田泰淳中国題材小説研究

②研究概要 / Outline of Research

戦後日本文学の代表的作家のひとりである武田泰淳は、『司馬遷』などの著作がある中国文学研究者であり、日中戦争時に中国への従軍経験があります。そのような経歴を持つ武田泰淳は、戦後に中国を題材にした小説を多く発表していますが、その文学創作の出発点を解明するために中国での戦争体験をもとにした小説「廬州風景」と、戦時上海で発表した小説を前身にした「月光都市」を中心に研究を行っています。まずは、小説「廬州風景」について研究を行っています。小説「廬州風景」は戦中から戦後にかけて二度改稿されたため、日本近代文学館に所蔵された原稿を調査したうえで、武田泰淳が戦後にどのように日本兵の主人公「私」を女性に書き改めたかを分析し、さらに小説の改稿の分析から武田泰淳の中国研究者から小説家への転身の原因を考察しています。さらに、武田泰淳に影響を与えた魯迅についても研究しています。泰淳のみならず日本における魯迅受容のさまざまな事象を明らかにするための調査を行っています。

③招聘期間中の研究活動の実績 / The research results as Guest Professor・Guest Scholar

明治大学では、竹内栄美子教授ゼミに参加し、ゼミでの報告をもとに、論文「武田泰淳文学創作の出発点—小説『廬州風景』の改稿を中心として」を完成し、中国での研究雑誌『東北亜外語研究』（2024年第2期）に発表する予定です。また、雑誌『上海文学』と武田泰淳「上海の蜚」を竹内栄美子教授とともに精読しました。武田泰淳は戦時上海で刊行された文芸同人誌『上海文学』に小説「中秋節の頃（上）」を発表しているため、復刻された雑誌『上海文学』と武田泰淳が晩年に書いた自伝風の小説「上海の蜚」とをあわせ読むことによって、戦時上海の日本語メディアの言論状況を考察し、さらに小説「月光都市」とその前身「中秋節の頃（上）」について分析を行いました。また、日本近代文学館などで武田泰淳の伝記的資料調査を進め、武田泰淳が戦時末期上海で発表した作品を通じてその文学活動の展開を解明するため分析を進めました。なお、魯迅については、新居格資料を調査し、その資料のなかに魯迅が贈った詩の原本や1934年に新居格が渡中したときのノートがあり、魯迅や茅盾についての記述を参照できたのは有益でした。招聘期間中の研究は実り多いもので、今後、論文の予定である。